

2018年度(平成31年3月期) 第2四半期決算説明資料

IHI

2018年11月1日

株式会社 IHI



目次

1. 2018年度第2四半期 連結決算

連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益.....	8
特別損益.....	9
連結貸借対照表.....	10
連結キャッシュ・フロー計算書.....	11
補足資料.....	12

2. 2018年度 連結業績見通し

通期業績見通し.....	15
報告セグメント別内訳.....	16

3. 報告セグメント別の概況

資源・エネルギー・環境.....	19
社会基盤・海洋.....	21
産業システム・汎用機械.....	23
航空・宇宙・防衛.....	25

<参考資料>.....	27
-------------	----

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

1. 2018年度第2四半期 連結決算

1. 2018年度第2四半期 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2018年度2Q 売上平均レート(米ドル) 109.79円

(億円)

	'17年度2Q	'18年度2Q	増減
受注高	7,151	6,493	▲ 657
売上高	7,734	6,995	▲ 739
営業利益	346	452	105
経常利益	195	491	295
税金等調整前 四半期純利益	182	518	335
税金費用	▲ 93	▲ 203	▲ 109
親会社株主に帰属する 四半期純利益	68	284	215

'18年度2Qには、過年度法人税等として▲43億円が含まれています。

2017年度において、一部の海外連結子会社の決算日を12月31日から3月31日に変更しており、該当する海外連結子会社の会計期間が9か月となっています。この影響により、前期の売上高で579億円、営業利益で14億円がそれぞれ増加しています。

1. 2018年度第2四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

(億円)

	受注高			受注残高		
	'17年度2Q	'18年度2Q	増減	'17年度末	'18年度2Q	増減
資源・エネルギー・環境	2,074	1,419	▲ 655	6,485	5,780	▲ 705
社会基盤・海洋	675	541	▲ 133	2,061	2,006	▲ 54
産業システム・汎用機械	2,463	2,372	▲ 90	1,610	1,889	279
航空・宇宙・防衛	1,811	1,981	169	5,330	5,297	▲ 32
報告セグメント計	7,024	6,315	▲ 709	15,487	14,974	▲ 513
その他	384	392	8	184	249	65
調整額	▲ 257	▲ 213	43	-	-	-
合計	7,151	6,493	▲ 657	15,671	15,223	▲ 447

海外受注高・受注残高	4,118	2,945	▲ 1,172	6,254	5,772	▲ 481
海外受注高・受注残高比率	58%	45%	▲ 13%	40%	38%	▲ 2%

1. 2018年度第2四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

(億円)

	売上高			営業利益		
	'17年度2Q	'18年度2Q	増減	'17年度2Q	'18年度2Q	増減
資源・エネルギー・環境	2,539	1,946	▲ 593	▲ 50	115	166
社会基盤・海洋	666	607	▲ 59	56	40	▲ 15
産業システム・汎用機械	2,271	2,099	▲ 171	74	81	7
航空・宇宙・防衛	2,154	2,244	89	295	239	▲ 56
報告セグメント計	7,632	6,897	▲ 734	375	477	102
その他	301	304	3	▲ 2	4	7
調整額	▲ 198	▲ 207	▲ 9	▲ 26	▲ 30	▲ 3
合計	7,734	6,995	▲ 739	346	452	105

海外売上高	4,440	3,672	▲ 768
海外売上高比率	57%	52%	▲ 5%

前期に一部の海外連結子会社の決算日を変更したことに伴うセグメント別の影響については、決算短信のセグメント情報を参照ください。

1. 2018年度第2四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(営業利益の前期比増減要因)

(億円)

	売上高の増減	工事採算の変動	為替の変動	販管費の変動	報告期間統一の影響	合計
資源・エネルギー・環境	▲ 3	148	1	20	1	166
社会基盤・海洋	▲ 3	▲ 11		▲ 2		▲ 15
産業システム・汎用機械	24	8		▲ 9	▲ 16	7
航空・宇宙・防衛	▲ 77	36	▲ 8	▲ 7		▲ 56
報告セグメント計	▲ 59	181	▲ 7	2	▲ 15	102
その他	3	4			1	7
調整額		10		▲ 14		▲ 3
合計	▲ 56	195	▲ 7	▲ 12	▲ 14	105

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

1. 2018年度第2四半期 連結決算 営業外損益

(億円)

	'17年度2Q	'18年度2Q	増 減	備 考
金融収支	0	▲ 3	▲ 2	
持分法による投資損益	0	51	51	
為替差損益	3	24	20	
その他	▲ 153	▲ 32	120	2017年度2Q: 民間航空エンジン契約調整負担金 ▲64 契約納期遅延に係る費用 ▲47
営業外損益	▲ 150	39	190	

期末日レートの変動(米ドル) '17年度2Q +0.54円 (期首112.19円→2Q末112.73円)
 '18年度2Q +7.33円 (期首106.24円→2Q末113.57円)

1. 2018年度第2四半期 連結決算 特別損益

(億円)

	'17年度2Q	'18年度2Q	増 減	備 考
関係会社株式売却益	—	41	41	小型原動機事業に係る事業会社の持分売却
事業譲渡益	15	—	▲ 15	
特別利益	15	41	26	
減損損失	—	▲ 15	▲ 15	小型原動機事業に係る固定資産の減損
商業運転中のボイラ設備に係る 和解関連費用	▲ 29	—	29	
特別損失	▲ 29	▲ 15	13	
特別損益	▲ 13	26	39	

1. 2018年度第2四半期 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	'17年度末	'18年度2Q末	増減
資産合計(※1)	16,334	16,539	205
(うち 売上債権)	(4,003)	(3,583)	(▲ 420)
(うち 棚卸資産)	(4,285)	(4,598)	(313)
(うち 投資有価証券)	(992)	(1,156)	(163)
負債合計(※1)	12,832	12,747	▲ 85
(うち 仕入債務)	(3,049)	(2,756)	(▲ 292)
(うち 前受金)	(1,778)	(1,755)	(▲ 22)
(うち 引当金)	(1,102)	(990)	(▲ 111)
(うち 有利子負債残高)	(3,222)	(3,646)	(423)
純資産合計	3,502	3,792	290
株主資本	3,132	3,365	232
その他の包括利益累計額	113	143	30
非支配株主持分等	256	283	27
負債・純資産合計(※1)	16,334	16,539	205
D/Eレシオ(※2)	0.92倍	0.96倍	0.04倍
自己資本比率	19.9%	21.2%	1.3%

有利子負債残高には、リース債務残高('17年度末:182億円, '18年度2Q末:167億円)を含んでいます。

(※1) 税効果会計に係る会計基準の一部改正に伴い、'17年度末の連結貸借対照表の組替を実施しています。

(※2) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

1. 2018年度第2四半期 連結決算 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	'17年度2Q	'18年度2Q	増 減
営業キャッシュ・フロー	431	▲ 27	▲ 458
投資キャッシュ・フロー	▲ 46	▲ 396	▲ 349
フリー・キャッシュ・フロー	384	▲ 423	▲ 808
財務キャッシュ・フロー	▲ 401	318	719

(1) 研究開発費・設備投資額・減価償却費

(億円)

	'17年度2Q	'18年度2Q
研究開発費	150	153
設備投資額	205	239
減価償却費	219	206

設備投資額, 減価償却費は, 有形固定資産に係る金額を示しています。

(2) 海外売上高

(億円)

	'17年度2Q	'18年度2Q
ア ジ ア	807	719
中 国	566	632
北 米	2,028	1,665
中 南 米	127	69
欧 州	751	511
そ の 他	159	72
合 計	4,440	3,672
海外売上高比率	57%	52%

2. 2018年度 連結業績見通し

2. 2018年度 連結業績見通し 通期業績見通し

前提為替レート 米ドル **105円**(前回見通し公表時 **105円**)
 (第3四半期以降) ユーロ **130円**(前回見通し公表時 **130円**)

(億円)

	前回見通し ('18年度通期) A	今回見通し ('18年度通期) B	前期実績 ('17年度通期)	増 減 B-A
受 注 高	15,000	15,000	15,050	0
売 上 高	15,000	15,000	15,903	0
営 業 利 益	850	850	722	0
経 常 利 益	650	650	214	0
親会社株主に帰属する 当期純利益	320	320	82	0

前回見通しは、2018年8月7日公表の業績予想数値です。

(参考)為替感応度(為替相場の1円の変動により、営業利益に与える影響額)

米ドル 5億円 ユーロ 0億円

2. 2018年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

(億円)

	前回見通し (’18年度通期)	今回見通し (’18年度通期)	増 減
資源・エネルギー・環境	3,800	3,800	0
社会基盤・海洋	1,400	1,400	0
産業システム・汎用機械	4,700	4,700	0
航空・宇宙・防衛	4,900	4,900	0
報告セグメント計	14,800	14,800	0
そ の 他	700	700	0
調 整 額	▲ 500	▲ 500	0
合 計	15,000	15,000	0

2. 2018年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益通期見通し)

(億円)

	前回見通し (’18年度通期)		今回見通し (’18年度通期)		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・環境	3,900	200	3,900	200	0	0
社会基盤・海洋	1,500	120	1,500	120	0	0
産業システム・汎用機械	4,400	220	4,400	220	0	0
航空・宇宙・防衛	5,000	440	5,000	440	0	0
報告セグメント計	14,800	980	14,800	980	0	0
そ の 他	700	30	700	30	0	0
調 整 額	▲ 500	▲ 160	▲ 500	▲ 160	0	0
合 計	15,000	850	15,000	850	0	0

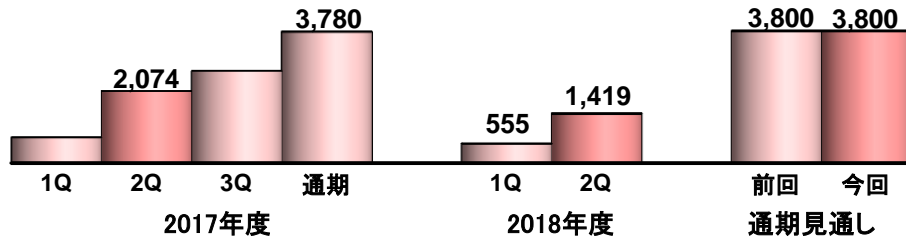
3. 報告セグメント別の概況

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円/各期の金額は累計)
前回: 2018年8月7日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 陸用原動機プラント, 中型原動機, 大型原動機, プロセスプラント, 原子力, 環境対応システム, 医薬プラント

受注高



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

ボイラで前期に海外の大型案件を受注した反動により、減少しました。

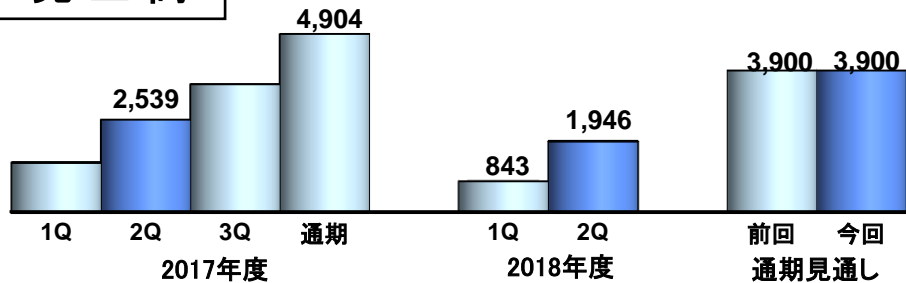
【売上高】

前期の報告期間統一の影響のほか、プロセスプラントにおいて前期に大型プロジェクトが進捗した反動で減収となりました。

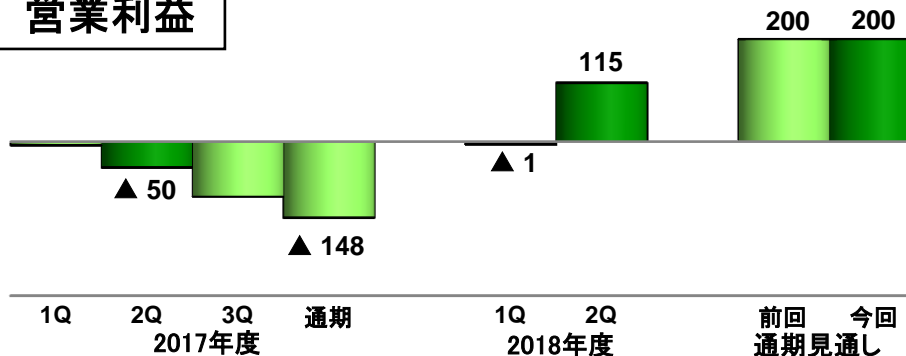
【営業利益】

プロセスプラントで前期に生じた採算悪化が収まりつつあることや、ボイラの採算改善により、大幅増益となりました。

売上高



営業利益



<通期見通し 対前回見通し 増減内訳>

受注高, 売上高, 営業利益いずれも変更ありません。

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

	受注高		売上高						
	'17年度 通期	'18年度 通期 (見通し)	'17年度			通期	'18年度		
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	通期 (見通し)
ポ イ ラ	1,304	1,220	254	700	998	1,481	270	697	1,200
陸用原動機プラント	353	300	64	110	167	257	28	97	250
中 型 原 動 機	584	620	145	285	409	586	117	263	600
プロセスプラント	440	550	691	997	1,263	1,491	222	429	700
原 子 力	219	280	52	103	169	338	50	120	400

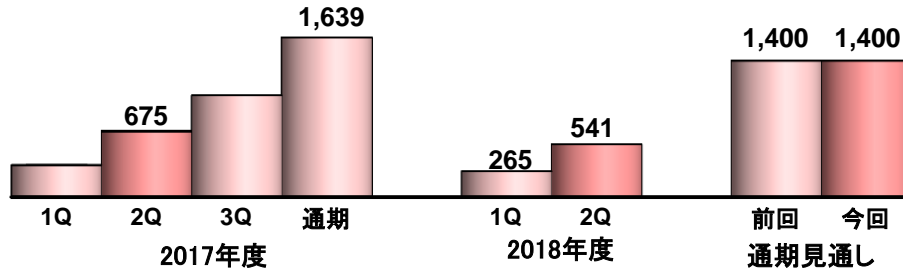
3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2018年8月7日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁・水門, シールドシステム, 交通システム, コンクリート建材,
都市開発, F-LNG・海洋構造物

受注高



<対前年同期 増減内訳>

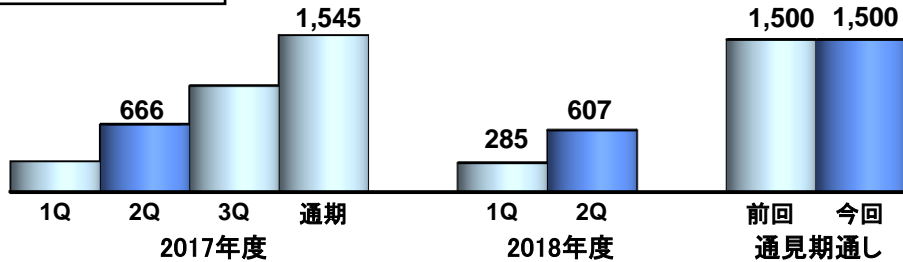
【受注高】

橋梁・水門で減少しました。

【売上高】

橋梁・水門で増収となったものの、F-LNG・海洋構造物やシールドシステムで減収となりました。

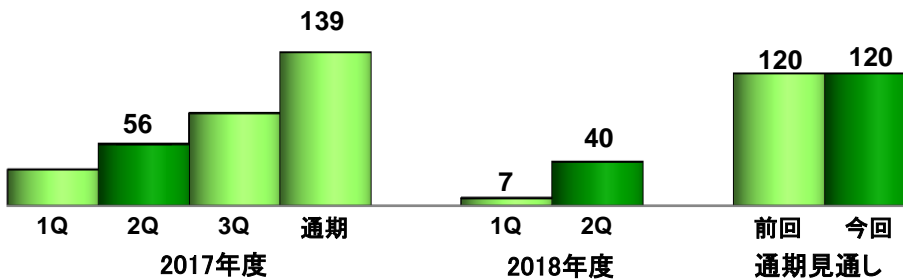
売上高



【営業利益】

F-LNG・海洋構造物における前期からの反動や、交通システムで減益となりました。

営業利益



<通期見通し 対前回見通し 増減内訳>

受注高, 売上高, 営業利益いずれも変更ありません。

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高		売上高						
	'17年度 通期	'18年度 通期 (見通し)	'17年度			通期	'18年度		
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	通期 (見通し)
橋梁・水門	1,031	700	128	267	427	673	152	301	800
シールドシステム	102	200	59	115	189	244	40	97	185
F-LNG	▲7	-	24	91	103	112	9	14	15
都市開発	162	170	42	89	125	169	37	79	170

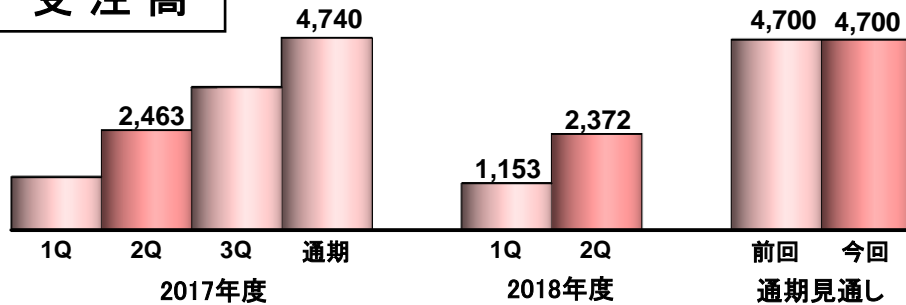
「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P33、P34の＜参考資料＞をご覧ください。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

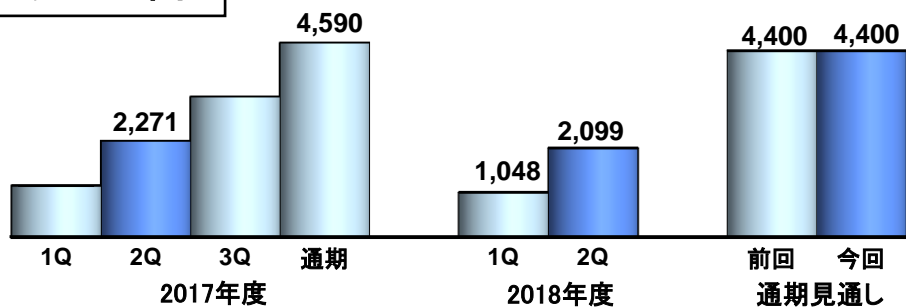
(億円/各期の金額は累計)
前回: 2018年8月7日公表の業績予想数値

主要事業: 物流・産業システム, 運搬機械, パーキング, 熱・表面処理, 車両過給機, 回転機械, 農機・小型原動機

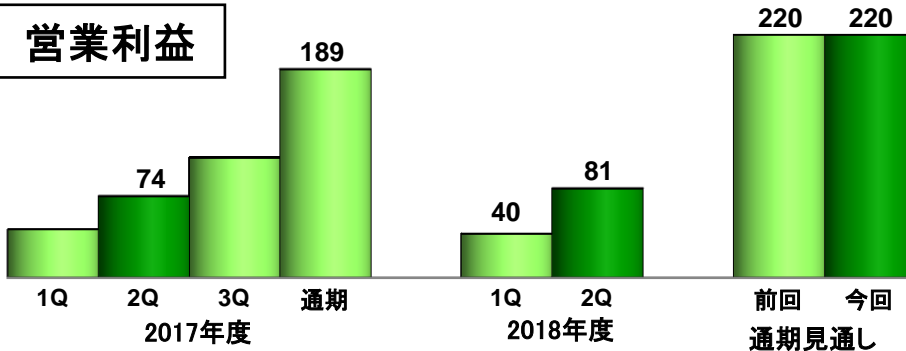
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

前期の報告期間統一の影響により減少しましたが, この影響を除くと, 物流・産業システムや車両過給機, 熱・表面処理などで実質的に増加しました。

【売上高】

前期の報告期間統一の影響により減収となりましたが, この影響を除くと, 熱・表面処理や車両過給機などで実質的に増収となりました。

<車両過給機の販売台数>

(万台)

販売年度	2Q累計	通期
2017年度	433	790
2018年度	354	720

※2017年度の値には, 報告期間統一の影響92万台を含んでいます。

【営業利益】

前期の報告期間統一の影響はあるものの, 熱・表面処理の増収やパーキングなどの採算改善により, 増益となりました。

<通期見通し 対前回見通し 増減内訳>

受注高, 売上高, 営業利益いずれも変更ありません。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

	受注高		売上高						
	'17年度 通期	'18年度 通期 (見通し)	'17年度			通期	'18年度		
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	通期 (見通し)
運搬機械	252	390	32	105	178	283	50	79	250
パーキング	513	470	78	171	289	428	77	179	460
熱・表面処理	503	420	132	230	326	438	111	210	400
車両過給機	2,201	1,950	691	1,179	1,664	2,205	516	993	1,950
回転機械	481	540	82	188	298	435	106	215	500

「車両過給機」の詳細は、P32の<参考資料>をご覧ください。

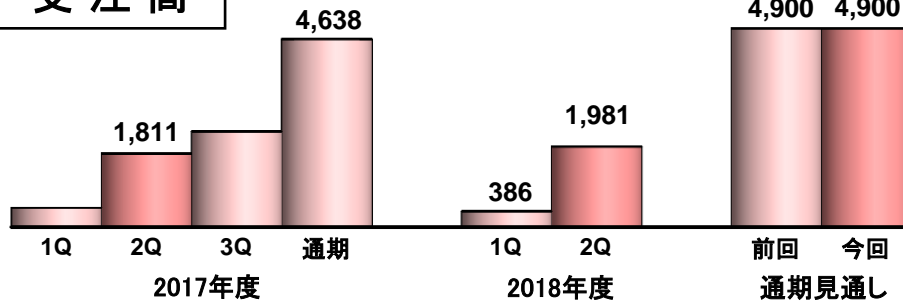
3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円/各期の金額は累計)

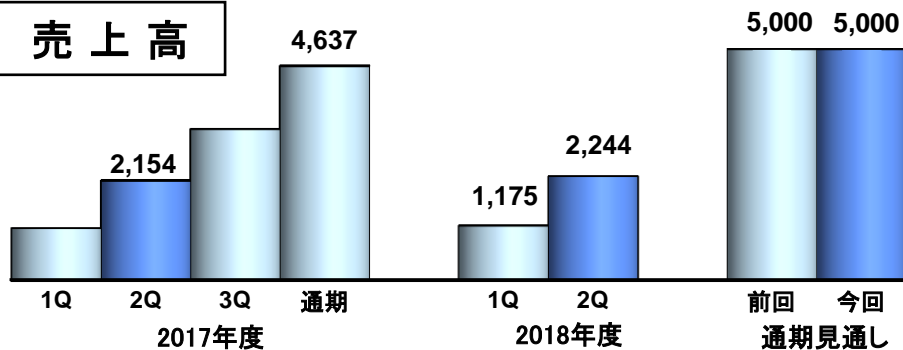
前回:2018年8月7日公表の業績予想数値

主要事業:航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム

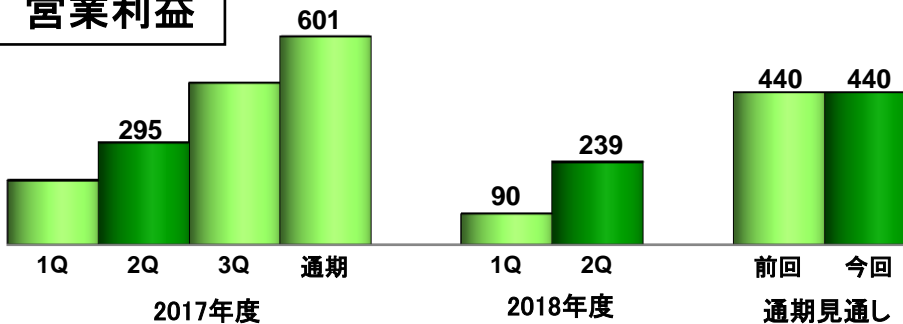
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】
防衛省向け航空エンジンで増加しました。

【売上高】
民間向け航空エンジンで増収となりました。

<民間向け航空エンジンの販売台数> (台)

販売年度	2Q累計	通期
2017年度	682	1,206
2018年度	749	1,700

【営業利益】
民間向け航空エンジンにおいて、不具合対応費用の負担は減少したものの、新型のPW1100Gエンジンの販売増加による影響などにより、減益となりました。

<通期見通し 対前回見通し 増減内訳>

受注高, 売上高, 営業利益いずれも変更ありません。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

	受注高		売上高						
	'17年度 通期	'18年度 通期 (見通し)	'17年度				'18年度		
			1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	通期 (見通し)
民間向け 航空エンジン	3,191	3,400	697	1,413	2,166	2,810	731	1,525	3,250

「民間向け航空エンジン」の詳細は、P31の<参考資料>をご覧ください。

<参考資料>

- ・海外大型案件の進捗状況
- ・当第2四半期のトピックス
- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

エルバ天然ガス液化設備



完成予想図



2018年9月末現在

<進捗状況>

2018年9月末現在で、No.1~8液化モジュール (MMLS) 据付工事と、BOP機械・電計工事を進行中。進捗は設計:100%, 調達:97.5%, 据付:76.7%, 試運転:6.8%, プロジェクト全体:77.3%。

<主要工程>

- 2016年3月: 契約締結
- 2016年11月: FERC (米国連邦エネルギー規制委員会) の建設許可承認 (仮設工事着工承認)
- 2017年2月: No.1トレイン液化モジュール (MMLS) 現着開始
- 2018年度第4四半期: No.1トレイン, BOP引き渡し (液化運転開始)
- 2019年中: プラント全体引き渡し

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: エルバ島 天然ガス液化設備のEPC契約
- ・建設地: 米国ジョージア州 チャタム郡 サバンナ エルバ島
- ・担当範囲: 年産約250万トンの液化設備の設計 (液化モジュールはお客様支給), 建設, 試運転

MMLS: Movable Modular Liquefaction System
 液化トレインはプラント全体で10トレインあり, 1トレインは79モジュールで構成

ジマイーストパワー石炭火力発電所



完成予想図



2018年9月末現在

<進捗状況>

2018年9月末現在, #1ボイラ保温材, 電気集塵機, #2ボイラ耐圧部, 配管, 電気集塵機を据付中。#1試運転開始。ボイラ部分の進捗は設計:約98%, 調達:約98%, 据付:約80%, 試運転:約39%, プロジェクト全体:約93%。

<主要工程>

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 2014年 8月: 契約締結 | 2018年10月: 火入れ(#1) |
| 2017年 1月: 立柱(#1) | 2019年 4月: 火入れ(#2) |
| 2017年 7月: 立柱(#2) | 2019年 6月: 商業運転開始(#1) |
| 2018年 4月: 水圧試験(#1) | 2019年12月: 商業運転開始(#2) |
| 2018年11月: 水圧試験(#2) | |

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: IPP事業者のJimah East Power社向け石炭焚き発電所のフルターンキー契約
- ・建設地: マレーシア, ネグリスンビラン州ジマ地区
- ・担当範囲: 超々臨界圧石炭火力発電所ボイラ (1000MW×2基) の設計・調達・建設及び試運転

廃棄物処理施設関連事業の統合に関する吸収分割契約を締結

IHIのグループ会社である株式会社IHI環境エンジニアリング(IKE)と、株式会社神鋼環境ソリューション(SKs)は、IKEの廃棄物処理施設関連事業等をSKsに統合することについて、2019年1月1日を効力発生日とする吸収分割契約を9月に締結しました。

両社は、2017年3月に包括的提携関係を樹立して以来、様々な業務拡大を目指した活動を行なってきましたが、日本の人口減等に伴い大きく変化する事業環境の中、両社の経営資源を結集することで、当該事業分野において、よりプレゼンスを高めることができると判断しました。事業統合体となるSKsグループは、IKEが持つ強みや特長を最適な形で融合しシナジー効果を発揮することにより、環境に優しい社会・地域作りに貢献していきます。



<大口径シールド掘進機>

香港テラテック社の株式を取得

IHIのグループ会社であるJIMテクノロジー株式会社(JIMT)は、香港のTerratec Limited.(テラテック社)の株式の51%を、同社の株主であるTerratec Group Inc.から10月に取得しました。

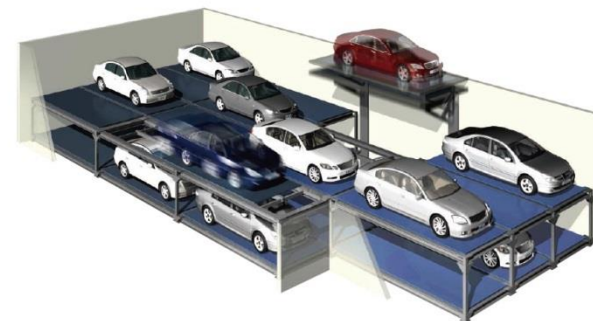
国内外で3,500基以上のシールド掘進機の納入実績を持ち、特に大口径シールド掘進機に強みを持つJIMTは、テラテック社と資本提携することで、テラテック社が取り扱う後続設備を含めたシールド掘進機のトータルシステムの提供が可能になります。また、テラテック社の掘削オペレーションのノウハウ、アフターサービス対応力、高いシェアを有するインド、タイ、トルコなどの海外営業網とのシナジーにより、競争力をさらに強化していきます。

IHIグループは、今回の資本提携によるシナジーを早期に発揮し、シールド掘進機の世界市場におけるリーディングカンパニーへの飛躍を目指します。

機械式駐車場事業の合併会社を中国に設立

IHIのグループ会社であるIHI運搬機械株式会社は、グローバルな事業展開として、中国山東省青島市の国有資本運営会社である華通集団傘下の華通能源投資有限責任公司、華通科工投資有限責任公司の2社と、新たに機械式駐車場事業を行なう合併会社を設立しました。

合併会社では、高収容効率を誇り、かつ中国にはないスーパースクエアパーキング(水平循環方式立体駐車場)をメイン機種として、事業展開を図ってまいります。



<スーパースクエアパーキング>

新たな民間航空エンジンの生産拠点を建設

IHIは、埼玉県鶴ヶ島市に新たな生産拠点を建設するため、このたび埼玉県と土地売買契約を締結しました。成長著しい民間航空エンジン事業を拡大するため、民間航空エンジン向け整備工場を建設し、2019年内の稼働開始を目指します。生産拠点の新設の決定は、1998年の相馬事業所(福島県相馬市)開設以来、21年ぶりとなります。

新拠点において、IHIは、航空エンジンの高度なものづくりシステムにIoT・AIなどの新技術を導入するとともに、瑞穂工場との事業運営の相乗効果によって、世界最高水準の効率的な生産体制を構築し、一貫した航空エンジンサービスを提供します。また、空港への優れた交通アクセスを生かし、国内外の様々な航空会社に対して、より短い工期で高品質なエンジンサービスを提供していきます。

IHIは、新拠点を加えた新たな生産体制のもと、航空エンジン事業における世界トップレベルの競争力の獲得に努め、この新拠点の有効な活用によって地域経済の発展に貢献するとともに、今後も、環境性能に優れる様々な航空エンジンを提供し、世界中の航空機の安心・安全・快適な運航を支えていきます。



<新工場のイメージ図>

(1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績										見通し	
	'12	'13	'14	'15	'16	'17年度			'18年度			
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q		2Q累計
売上高	1,698	2,260	2,670	2,991	2,915	697	1,413	2,166	2,810	731	1,525	3,250

(2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)										主要搭載機
	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18/2Q	
V2500	4,168	4,551	4,980	5,468	5,969	6,469	6,896	7,236	7,508	7,608	エアバス A319/320/321
GE90	1,071	1,223	1,399	1,589	1,806	2,039	2,257	2,457	2,617	2,667	ボーイング B777
CF34	2,604	2,919	3,242	3,548	3,820	4,156	4,471	4,821	5,085	5,205	リージョナルジェット (70~110席級)
GEnx			118	259	468	751	1,035	1,295	1,542	1,666	ボーイング B787/B747-8
PW1100G							16	148	398	722	エアバス A320Neo
Passport20									13	44	ボンバルディア社 Global7000/8000
合計	7,843	8,693	9,739	10,864	12,063	13,415	14,675	15,957	17,163	17,912	

(注) 販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

<地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績										見通し	
	'12	'13	'14	'15	'16	'17年度				'18年度		
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	通期
日 本	339	353	375	346	389	101	196	296	398	107	216	380
ア ジ ア	248	298	275	216	158	28	57	87	117	26	54	110
中 国	181	234	243	249	485	215	383	533	719	175	344	690
北 米	13	16	18	24	33	7	19	49	84	28	55	120
中 南 米	0	0	7	34	61	11	28	51	74	21	42	90
欧 州	432	602	756	743	617	327	492	647	811	156	279	560
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1,216	1,507	1,677	1,616	1,746	691	1,179	1,664	2,205	516	993	1,950

(1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績										見通し	
	'12	'13	'14	'15	'16	'17年度				'18年度		通期
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	
賃貸収入	92	91	93	101	93	23	46	69	92	23	46	93

(2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
'18年度2Q	46	19	12	15

豊洲1~3丁目地区 開発マップ

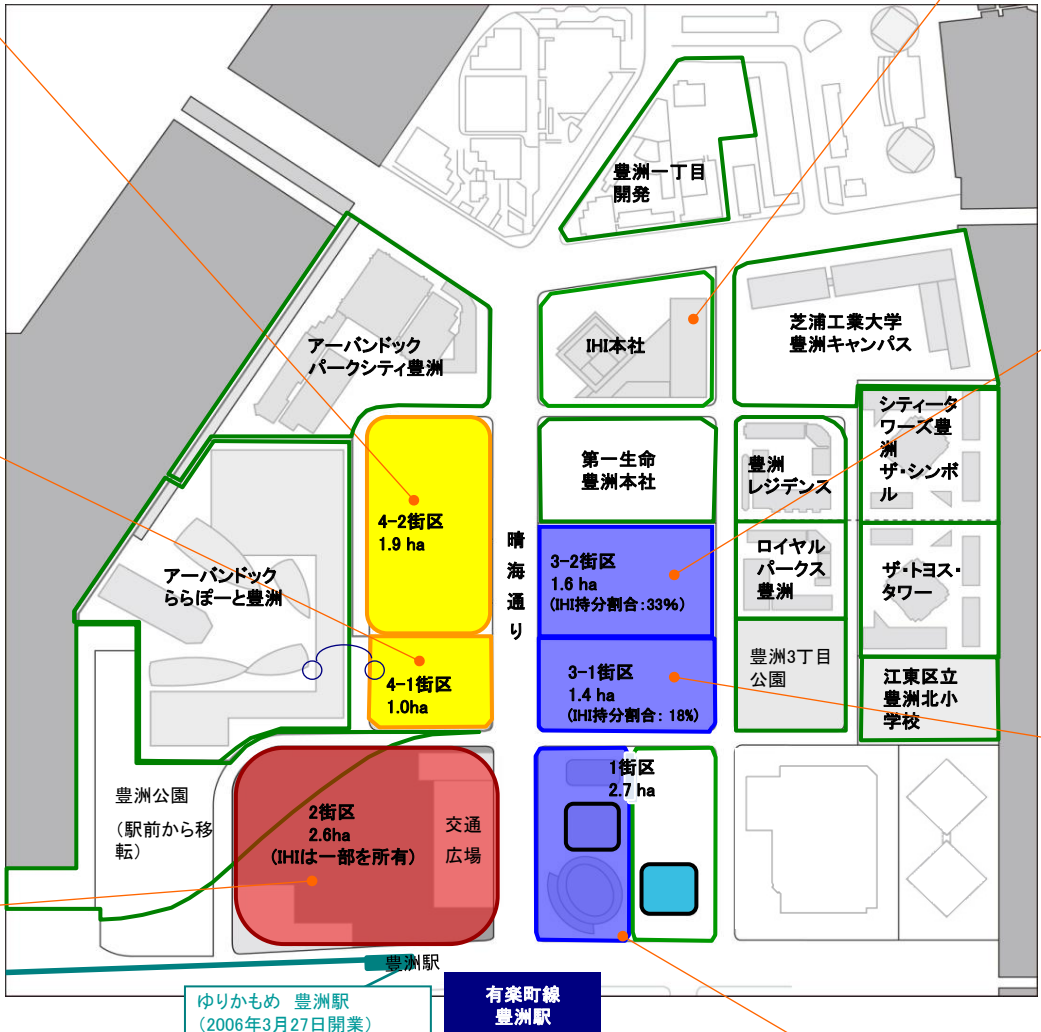
幼稚園、保育園、カフェ、結婚式場
敷地面積：19,492㎡
2010年3月～2011年2月竣工



アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEX (三井不動産)
地上5F, 高さ約25m, 延床面積：24,721㎡
2006年10月開業




複合ビルAC棟 (IHI, 三井不動産)
地上36F, 高さ178m, 延床面積約185,000㎡
2020年4月竣工予定


豊洲IHIビル
地上25F, 高さ:約125m, 延床面積:97,617㎡
2006年2月竣工



豊洲フォレシア (IHI, 三菱地所(SPC))
地上16F, 高さ:約75m, 延床面積:101,503㎡
2014年7月竣工




豊洲フロント (IHI, 三菱地所(SPC), 三菱UFJ信託銀行)
地上15F, 高さ:約75m, 延床面積:106,861㎡
2010年8月竣工



豊洲センタービル
地上37F, 高さ:約165m, 延床面積:100,069㎡
1992年10月竣工

豊洲センタービルアネックス
地上33F, 高さ:約150m, 延床面積:105,448㎡
2006年8月竣工



シビックセンター棟:2015年9月開業
消防署棟:2016年6月竣工

IHI所有地	約5ha
--------	------

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 建物賃貸(借地)
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

IHI

Realize your dreams

ご注意

業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。